

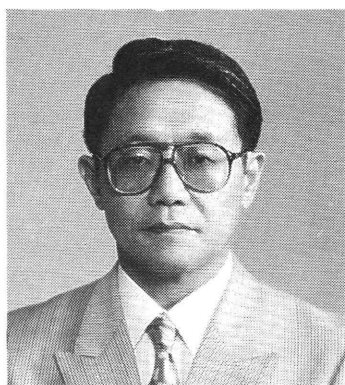
歯科衛生士フォーラム

基調講演

演題「我々のなすべきこと」

長崎大学医学部衛生学講座教授

齋藤 寛 先生



■ 経歴

1963年 東北大学医学部卒業
1964～1978年 同大学第二内科講師。循環器、腎臓疾患の研究・診療に従事
1979年 環境庁国立公害研究所（現国立環境研究所）室長
1984年 長崎大学医学部衛生学教授
環境庁国立公害研究所室長時、環境医学、特に重金属環境汚染の健康影響問題を手がけ、さらに予防医学に関心を持つようになった。長崎大学医学部衛生学教授着任後は成人病予防と健康教育を教育活動の中心におき、全国各地で地域保健にかかわるさまざまな職種の人々と一緒に地域保健活動を展開している。

■ 講演要旨

21世紀の子供達への健康に関するメッセージはと問われたら、私は直ちに「歯の健康」と答えたい。

日本の近代120年の歩みのなかで、私達は感染症、とくに肺炎と結核を克服してきた。その土台には国民の栄養状態の改善と基礎体力・抵抗力の向上があったのである。死亡率の低下とともに高齢社会が到来して、中高年層の健康問題である成人病がクローズアップされてきた。栄養状態の改善、抵抗力増大、寿命延長という目覚ましい健康水準の向上の代償として日本人の歯の健康は最低の水準に落ち込んでしまっている。う歯、歯周病、歯脱落はいま世界でもっともバランスがよいとされている私達の食生活が生み出した鬼子なのである。現在の私達の食生活は死亡率を低下させ長寿国をもたらしたが、それは他方において歯を徹底的にむしばんだのである。私達がこれまでに獲得してきたさまざまな健康指標の水準を低下させることなく、今後、歯の健康を回復させ、さらに向上させるためにはどのような戦略が必要であろうか。このことを考え、実行に移すことが次世代の子供達に対する何よりの贈物であろう。